

「私たちは」

ダニエル書 9 : 1 - 11

August.23.2020

## ダニエル 9 : 1 - 11 (パワポ)

### Preface

今、ダニエルは、70年間仕えてきたバビロン帝国が滅び、メディア・ペルシア帝国が新たに統治し、支配するという、自らの存亡の危機に立っています。

ダニエルのみならず、70年前、バビロンに引っ立てられて来て、捕囚の民として暮らしてきたイスラエルの民たちにとっても、存亡の危機であり、自分たちの処遇がどうなってもおかしくないような状態に陥りました。

そんな不安・危機の中、ダニエルが取った行動は、神の言葉である聖書を読むことでした。

特に、ここでは、エレミヤ書を読みました。

そして、エレミヤ書を読んだダニエルは、神様から思ってもみない一つの悟りを与えられました。

それは、神の定めた70年という時が満ちて、ついにイスラエルに回復が起こるということでした。

バビロンからメディア・ペルシアへと支配権が変わり、どうにかなってしまうのではないかと案じていたところ、逆に、救済を神様から宣言されました。

70年間待ち続けた祖国の復興、民族の回復、そして故郷エルサレムへの帰還という予想だにしなかった喜びの知らせを、聖書の言葉から悟らされたわけです。

聖書から悟りを与えられたダニエルが、真っ先にしたことは、神に祈りをささげることでした。

聖書の言葉を通して語ってくださった神様に、祈りをもって応答するのです。

ダニエルは、不安と危機に直面して、神の言葉と祈りに、依り頼みました。

そして、本来祈りとは、私達側から発信するものではなく、神の言葉に応答することだということを、ダニエルは身をもって示してくれています。

ただここで、一つ不可思議に思えることがあります。

それは、ダニエルの祈る姿とその内容です。

ダニエルにしてみれば、予想だにできなかった民族の救済と復興という狂喜乱舞してもおかしくない喜ばしい知らせですが、ダニエルの祈る姿からは、喜ばしさの微塵も感じられません。

### ダニエル9：3 (パワポ)

断食、粗布、灰かぶり、哀願、何一つ喜ばしい言葉は、登場してきません。ダニエルの祈る姿は、狂喜乱舞どころか、悲哀の極みのような姿です。

これについては、前回のメッセージの時お話ししましたが、今朝は、ダニエルの祈りの中に出てくる言葉について、見ていきたいと思っています。

特に、ダニエルが祈る時に用いた「主語」に注目したいと思っています。

#### Part One

と言うのも、ダニエルの祈りを見ていきますと、気になって仕方がないのが、その「主語」なんです。

神様の前に断食し、粗布をまとって、灰をかぶり、哀願をもって祈る時に、ダニエルは、しきりに、「私たち」という言葉を用いているんです。

ここでひとつ質問ですが、イスラエル民族が、バビロンに滅ぼされて、捕囚として捕まって来たのはいつですか？

ダニエルが祈りを献げたこの時から、70年前の話ですよ。ダニエルがまだ、10代の青少年の頃の話です。

我が家には、10代の子どもが3人いますが、例えば、私が事業を起こして失敗して、家族全員夜逃げしなければならない状況に陥ったとしたら、それは、子どもたちのせいでしょうか？

違いますよね。100%、私のせいです。何を言いたいかわかりになりますよね。

ダニエルが、まだ10代の青少年の頃、捕虜として捕まって来たのは、ダニエルのせいではありません。

父たち、おじいちゃんたち、時の社会や、時の権力者たちのせいです。なのにダニエルは、

### ダニエル9：5-6 (パワポ)

と、祈るんです。

「私たちが、神であられるあなたの前に、悪さをしました。」と、あたかもダニエル自身のせいで、国と民族が滅びたかのように、悔い改めて祈るんです。

あの人たちのせいで、父のせいで、おじいちゃんのせいで、先祖たちのせいで、リーダーたちのせいで、為政者や王たちのせいで、こんな目に合って、無念だし、納得しがたいし、悔しいし、やりきれないとは言いません。

神の前に、国家全体が、民族全体が、歴史を貫いて犯してきた罪に、自分を含めるどころか、自分にこそ、その罪の原因があるかのように、決して、人のせいにはせず、我が罪として、灰をかぶるんです。

7, 8節を見ますと、その罪の真っ只中に、自分自身を含めるダニエルの姿勢が、さらに、顕著になってきます。

### ダニエル9：7－8（パワポ）

ここで、ダニエルは、先祖たちの罪をしっかりと指摘しながらも、そこから自分はあたかも関係ないかのように、知らんぷりするのではなく、

そこに、自分をしっかりと含めて、「顔をおおう恥は私たちにあります。」と2度も告白し、「私たちは、あなたに罪を犯してきました。」と、涙ながらに、祈るんです。

先祖が過去に犯した罪は、自分とは関係ないとはならないで、むしろ自分にこそ脈々と受け継がれてきた罪があり、こんなことになってしまったんだと、人の前でも、神の前でも、知らん顔せずに、灰をかぶりました。

## Part Two

先週の敗戦記念礼拝で、清野先生がメッセージをしてくださいましたが、その説教内容にも繋がりますよね。

2300万人以上の命を奪った戦争は、誰のせいですか？

過去の人たちのせいですか？

（7, 8節でダニエルも言う通り）もちろんそうでしょう。

でも、それ以上に、私たち、今、生きている私たち一人一人のせいです。

私たち一人一人の、人を責め立て、人を攻撃し、人の粗ばかりを探し、人のせいにして、自分を高め、自分を正当化する、闘争本能の塊のような私たちのせいです。

これをまた認めがらないのも、私たちですし、隠蔽しようとするのも私たちですし、品行方正ぶって、上品ぶって、立派なふりをするのも私たちです。

### エレミヤ書31：29-30 (パワポ)

どういうことかと言いますと、「なんで父親が食べた酸っぱいぶどうのせいで、子どもの僕が、酸っぱい思いをしなければならないんですか？」 「なんで、先祖たちの罪のために、罪なき私たちが、捕虜として捕まっていかなければならないんですか？」 という社会的な雰囲気があるということです。

もちろん、これは、論理的な妥当性がありますよね。

「父の失敗は、父の失敗であって、僕の失敗ではない。」

この当たり前の論理的妥当性を主張する世にあつて、ダニエルは、こういう論理で迫るのではなく、また罪から自分だけサッと抜けるのでもなく、すべてを抱きかかえて、「私たち」って言うんです。

30節の「人はそれぞれ自分の咎のゆえに死ぬ。」ということ、ダニエルはちゃんとわかっていましたし、人の罪さえも、自分の罪ゆえだということまで、遜りました。

### Part Three

今、全世界を一言で言い現わすと、「うっぶん共和国」だと言った方がいます。人の鬱憤が積もり積もった世界だということです。

他の言葉に言い換えると、「人のせい共和国」です。

または、「責任転嫁共和国」です。

そして、私たち一人一人は、「責任転嫁共和国」の国民です。

「あの人が食べたぶどうのせいで、なんで、僕の、私の歯がしみなきやいけないんだ。」と、訴えてばかりです。

もしかしたら、教会もそうかもしれません。

「信仰共同体」ではなく、「人のせい共同体」です。

あの牧師のせい、この伝道師のせい、あの信徒のせい、この先生のせい、あの役員さんのせい、この長老のせい、あの人のせい、この人のせい… すみません。誤解しないでください。

悪口を言おうとしているのではなくて、これが、心の痛む事実かもしれないということです。

私たち、1年以上、ここまでダニエル書を見て参りましたが、  
ダニエルが、主なる神様の言葉に従わなかったことがありましたか？  
ダニエルが、自分がクリスチャンだということを隠したことがありましたか？

ダニエルが、神様に祈らない日が、一日でもありましたか？  
ダニエルが不義をなし、悪を行ったことがありましたか？

もちろん、ダニエルだって罪人の子ですから、当然、罪人です。

でも、信仰者らしからぬ悪しき者だと言われたことなんか、一度もありません。  
むしろ、世の人たちから、聖なる神の霊の宿る人だと、言われました。

私は、伝道師・牧師になって18年経ちますが、恥ずかしながら、そんなこと一度も言われたことはありません。

これこそ、私の涙ながらの祈りです。

「神様、なんで僕は、ダニエルのようにじゃないんですか！

なんで、ダビデのようにじゃないんですか！

なんで、ヨブのようなじゃないんですか！」と、涙ながらに祈ります。

人の罪を、世の罪を抱くどころか、人のせいにして、世のせいにしてばかりです。

私たちキリスト者が、  
ダニエルのように御言葉を通して与えられた悟りをもって、  
ダニエルのように祈りを献げ、  
ダニエルのような言葉を告白して、灰をかぶろうとしないならば、  
世の中変わらないでしょう。

#### Part Four

創世記（18章）で、アブラハムが、ソドムとゴモラに、もし10人の正しい人たちがいたら、滅ぼさないでくださいと祈りますが、結局、ソドムとゴモラには、10人の正しい人もいなくて、滅びてしまいました。

逆に言えば、10人の正しい人がいれば、ソドムとゴモラは滅びずに、社会に変革が起こる可能性を秘めていたということです。

じゃ、ここで言う、10人の正しい人ってどんな人でしょうか？

人のせいにせず、  
罪人である自分を神の前にさらけ出し、

人の罪、社会の罪さえも自分の罪のように考え、  
罪ある所から自分だけサッと抜けて、抜け抜けと、知らん顔するのではなく、  
抱きかかえて、灰をかぶって、祈る人です。

こういう人が10人いるだけで、町が、都市が、国が、教会が、生きるんです。

イザヤが、神様に会った時に発した言葉をご存知でしょうか？

### **イザヤ書6：5（パワポ）**

今、イザヤは、

「ああ、私は滅んでしまう。 あの人のせいで、この人のせいで、あの政治家のせいで、この国のせいで、あの上司のせいで、この家族のせいで、この民のせいで、この世界のせいで、滅んでしまう。」とは、言いません。

「この汚れた唇で、汚れた世の一端どころか、世の汚れの原因として、汚れた世を生きている私自身の罪のせいで、滅んでしまう。」と言います。

この言葉は、主イエス様を前にして、私たち人間が、正直になったならば、口を突いて出てくる言葉です。

イエス様に、初めて出会ったペテロも、同じような言葉を口にしました。

### **ルカの福音書5：8（パワポ）**

「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間ですから。」  
すべての信仰は、この言葉から始まります。

主イエスキリストの十字架の罪の贖いの福音が、心に触れ、心を刺すと、私の罪深さが、大波のように押し寄せてきます。

ペテロの説教を聞いた3000人もの人たちも、「この社会がどう変わればいいのでしょうか？」ではなく、「私たちがどうすればいいのでしょうか？」と言いました。

### **使徒2：36－38（パワポ）**

「あの人たちがどうすれば、いいのでしょうか？」ではなく、「私たちはどうしたらよいのでしょうか。」と、言います。

すべての信仰は、ここから始まり、また、霊的成長、霊的成熟も、この言葉に

現れてきます。

使徒パウロ先生の言葉を見てみましょう。

### テモテへの手紙第一 1 : 15 (パウロ)

使徒パウロが、なぜ、偉大だったのか？

キリスト教信仰の土台を築いた人だったからでもなく、新約聖書の大半を書き上げたからでもなく、異邦人宣教の道を切り開いていったパイオニアだったからでもありません。

「私はその罪人のかしらです。」と、心底、告白できたからです。

人の罪ではなく、何よりも、自分自身の罪が主イエス様の前にあって、大いに自覚できたからです。

ここに、パウロ先生のキリスト者としての偉大な霊的成熟が見られるんです。

### Part Five

私たちが霊的に満たされている時は、いつも、「私のせい」「私のせい」だという涙ながらの告白が出てきます。

でもこれは決して、消極的、破滅的な自己卑下ではありません。

人を抱き、人の救いへとつながる、聖霊の働きです。

だから自己卑下ではなく、むしろ、私と言う存在は、神によって肯定されている天下に二つとない尊い存在なんだという恵みと感謝が沸き上がってきます。

もし、この信仰に立たないならば、パリサイ人や律法学者のように、「あなたのせいで、こんなになった。」という思いに、心が満ちてしまいます。

そして、こういう人たちの、またはこういう状態の特徴が何だかわかりますか？

理路整然としていることです。

なぜ、相手が悪いのかを、的確に、しかも鋭く指摘します。取り付く島もないほどに、攻撃します。

そして、言っていることが、すべて合っています。間違っていない。理路整然として指摘し、時には、文書にしてまで指摘します。

「我が家が、この仕事、この組織が、私たちがこうなってしまったのは、私

のせいではなく、あなたのせいだ！」と、言います。

でも、そうして、相手を制圧したからと言って、何か暮らし向きが良くなりましたか？

残ったのは、傷と、不穏な空気と、痛みばかりです。

理路整然と、正しいことを並べ、責め立てれば責め立てるほど、霊的未熟さが露わになるばかりか、

自分が罪人であることを忘れたかのように、人の罪ばかりを、自信をもって指摘し罪に定めることは、ある意味、聖なる神の前にあって、とても勇敢な、この上ない不届きな様でもあります。

こんなことを言っている私自身、本当に耳が痛い話です。

妻を、子どもたちを、ありとあらゆる人たちを、新聞を見て、テレビを見て、道行く人を見てさえも、正しいことを並べながら、責め立てます。

ここでひとつ私たちが知らなければならない重要なことは、

主イエス様が、正しいことをもって、論理的に、理路整然と私たちに迫って来られたら、私たち誰一人、この場にいることなんか出来ないということです。

主が、主の正しさを盾にして、私たちに迫ってきたら、私たちは滅びるしかありません。

主の正しさを前にして、私達罪人は、燃えて、消えて、無くなってしまいます。

もし、イエス様が、「おい、なんであなたが罪を犯したのに、わたしが十字架に架からなければならぬんだ！！ 論理、論理、つじつま、つじつまと言うが、あなたの罪の身代わりに、わたしが十字架に架かることが、つじつまに合っているか？ つじつまを合わせたいなら、あなたが十字架に架かって滅びてしまいなさい！」と、迫って来られたら、ひとたまりもありません。

しかも、言っていることは、論理的におかしなことではなく、しっかりつじつまが合っている話です。

「てめーの落とし前はてめーでつけな！」 つじつまが合っています。

でも、愛なる神様は、愛に富みたもうイエス様は、そんなこと、一言も言いません。

むしろ、つじつまが全く合わない、神ご自身が、神の子イエス様が、犠牲をお払いなさるのです。

論理も、つじつまも、へったくれもない、神様の聖なるちゃぶ台返しです。

つじつまではなく、赦しと抱擁と愛をなすための聖なるちゃぶ台返しです。



ダニエルは、それが、よく分かっていました。

もちろん、正しいことを正しいと言うこと、間違っていることを間違っていると主張することは、無くてはならないことです。

でも、私たちキリスト者が忘れちゃならないのは、私もその罪から逃れることの出来ない罪人だということを、灰をかぶる思いでしっかり自覚しながら、最大限、謙遜に、柔和に、愛を込めて、指摘しなくちゃならないということです。

### Conclusion

こんな言葉を聞いたことがあります。

「チンギスハンは、幼い頃父を亡くし、ふるさとから追い出されたが、身内や家庭環境のせいにはせず、お金がなくて野ネズミを食べながら生き延びたが、貧しさのせいにはせず、自分の名前を書くことが出来なかったが、学歴のせいにはせず、彼の率いる軍隊は、敵方の1 / 100に過ぎなかったが、境遇のせいにはしなかった。そして、世界を征服した。」

大きな感動のある言葉です。

ダニエルもこういう生き方をして、聖なる神の霊の宿る人と言われました。  
イエス様もこういう生き方をされて、救いを成し遂げられました。  
そして、私たちに、神様が期待しておられることは、こういう生き方です。

だから、「主よ。義はあなたにあります。顔をおおう恥は私たちにあります。」  
と言う祈りと告白をする、幸いなキリスト者として、共に生きていきましょう。

お祈りいたします。

祝祷：主よ。義はあなたにあります。顔をおおう恥は私たちにあります。